

# マナラ通信

被災地  
応援号

vol.2

はじめまして！  
システムグループの  
桜井由美子です。



私は、お客様からのご注文やお問合せなどを正確に入力できるシステムを日々開発しています。もちろん、お客様からのご注文のお電話にも出ているので、直接お話しさせていただきます。

実は私、学生時代にボランティア部に所属していました。その経験を活かして誰かの助けになりたいと思い、震災後に会社のボランティア休暇を取得し、9月に「岩手県の陸前高田復興のボランティアセンター」で4日間にわたり活動してきました。



## 【津波の恐ろしさを 実感しました】

陸前高田に行く途中のことです。宮城県気仙沼を訪れたのですが、津波の大きさ目の当たりにし、本当に驚きました。テレビや新聞で見た光景はどこか他人事のようにでしたが、現実には私の想像をはるかに超え、住宅地だった場所は家の土台だけが残り、油まじりの汚れた水がまだまだ引いておらず水浸しの状態でした。



●港から1キロ離れた道路

港から1キロも離れた道路に打ち上げられた大型船を見た時の衝撃は、忘れる事ができません。

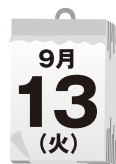
被災地を自分の目で見たことで、そこにあつた生活を一瞬で消し去つた津波の怖さをやっと現実として実感しました。



## 【薪ストーブの 薪集めをしました】

作業開始初日は、養殖の牡蠣を育てる為のイカダを作る予定でした。しかし、イカダの材料となる木材の調達に間に合わなかった為作業を変更し、冬場に海女小屋で暖をとるために使う薪ストーブの薪集めをしました。

作業現場への行き帰りに、ボランティアスタッフの方が陸前高田の他の津波被害地を見せてくれました。震災から半年も経つた9月でさえもほとんどの通りが一般車両の通行禁止区域で、海沿いではいまだに遺体捜査が行われていました。



## 【工場のガレキ 撤去作業をしました】

陸前高田市内の工場があつた場所のでガレキ撤去作業をしました。

ボランティアが来るまでは、持ち主のおじいさんがたった一人で手押し車を使い、屋内にたまった泥をかき出していたそうです。

釘や硝子を取り除きながら袋に土砂を詰め、1時間半くらいで50個の土のうを作りました。

それでも1部屋分の土砂すら取り除く事ができず、まだまだ人手が足りていないことを実感しました。



宿舎へ戻る帰り道、陸前高田の駅前だった場所を通ったのですが、避難所に指定されていた高台にある小学校(写真①)も津波に襲われてしまったそうです。市街地にある農協では(写真②)1階・2階部分が津波に襲われ、3階部分は辛うじて原型をとどめている状態でした。



●以前は工場があった

たびたびニュースでも報道されていたスーパーの屋上(写真③)に避難した方達は助かったそうです。その近くに、避難場所だった骨組みだけの市民体育館がありました。当時100名以上の方が避難されていました。津波に襲われ、助かった3名以外は亡くなってしまったそうです。



### 「大津波に耐えた 奇跡の一本松」

最終日は、岩手の復興シンボルになっている「奇跡の一本松」を見に行きました。このあたりは数百本の松が並ぶ美しい松林だったそうですが、津波で多くの松が流され、この松だけが残りました。しかし、大きな津波に耐えたこの松も塩害で枯れそうな状況にある為、地元の方々が必死に治療をしていました。



今回、ボランティアに参加して思った事は、「人も物資もまだまだ足りない」という事や、自分の考えの甘さでした。

正直、震災から半年経ち、私の中でもあの日の出来事は過去になりつつあり、節電のポスターやときどき目にする震災のニュースで思い出すくらいでした。仮設住宅もでき、自衛隊も撤退したとの事で、着実に復興に向かっていくんだと思っていました。

ですが、今回被災地に行き目にした光景は、半年前のあの日で時間が止まっているような場所が多く、先に進む為の準備すらままならない状況におかれているのが現実でした。

一度ボランティアに行けば自分の中で満足するかな?と思っていました。が、やらなくてはいけない事や片づけなくてはいけない場所がまだまだ沢山あることを知りました。その

間にも雑草などが生い茂り、ガレキ撤去をする以前に雑草抜きなどの新たに「やらなきゃいけない事」も増えています。

今回、自分の目で見て現状を知ること、自分の考えの甘さを痛感しました。

また自分の中で、やり終えた感や充実感がまったくなく、不完全燃焼なので時間をつくりまた参加したいと思つてます!



これからも、私たちにできることを実践していきたいと思つています!